

トラック輸送情報（平成14年11月分）

平成15年 2月 3日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

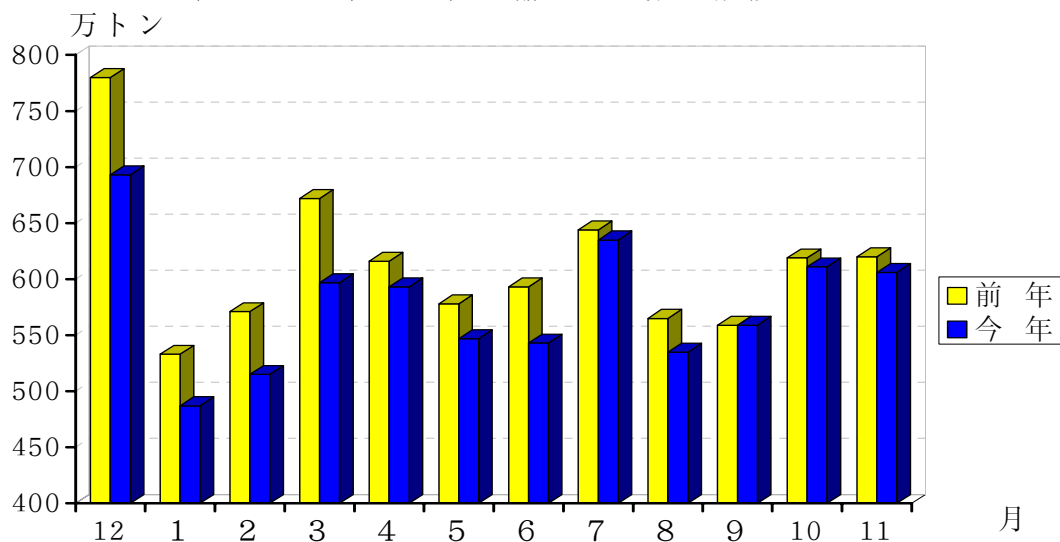
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の輸送状況

調査対象26社の本月の輸送量は6,055,081トンで、前年同月比 97.7%、前月比 99.1% (季節調整済み 99.5%) の実績であった。(図1-1、図1-2参照)

なお、平均稼働日数は、23.6日、稼働1日当たりの輸送量は256,571トンで、前年同月比 94.4%、前月比106.6%となった。

(図1-1) 26社の輸送トン数の推移



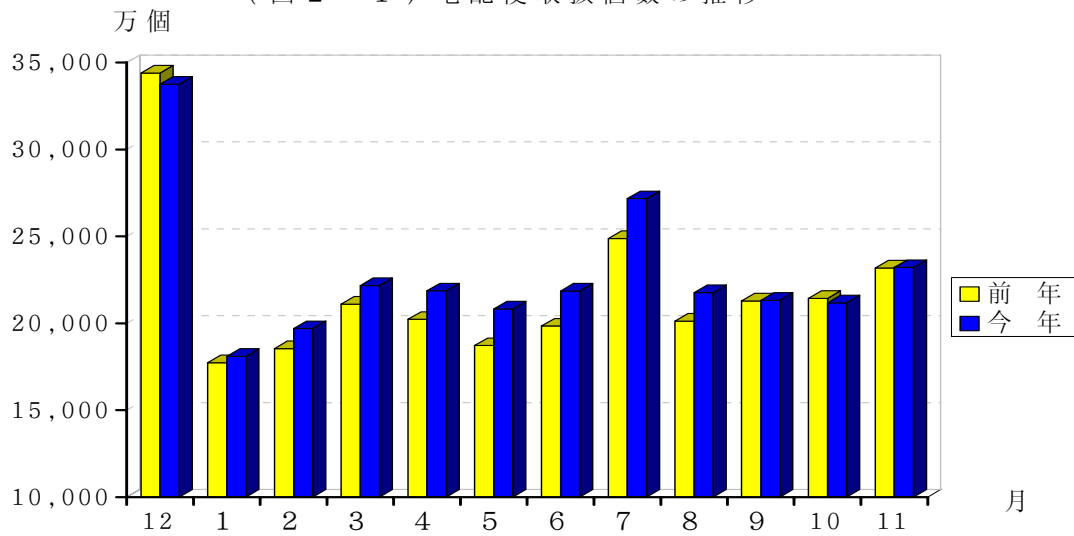
(図1-2) 前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



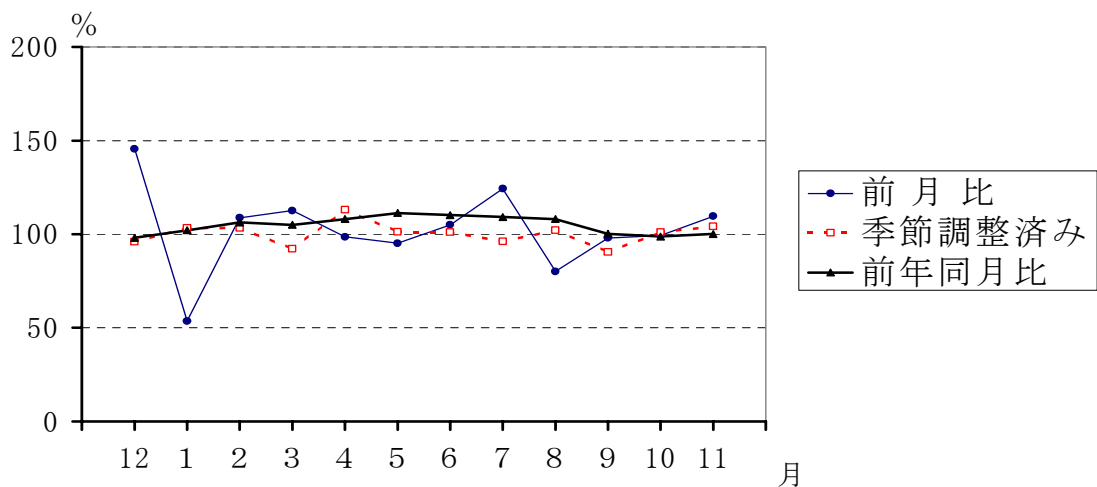
(2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は232,166千個であり、前年同月比100.1%、前月比109.6%（季節調整済み104.2%）であった。（図2-1、図2-2参照）

（図2-1）宅配便取扱個数の推移



（図2-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



(3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は1.8日減少し、稼働1日当たりの輸送量は約1.6万ト増加したため、前月比106.6%の実績となった。総輸送量について先月と比べ約6万ト減少したため、前月比99.1%の実績となった。宅配便について、約2041万個増加したため、前月比109.6%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は0.8日増加し、稼働1日当たりの輸送量は約1.5万ト減少したため、前年同月比94.4%の実績となった。総輸送量について、約14万ト減少したため、前年同月比97.7%の実績となった。宅配便について、約29万個増加したため、前年同月比100.1%の実績となった。

(4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、前月と比べ、稼働日数が1.8日減少し、全ての品目において減少傾向にあった。中でも、食料工業品が北陸信越、関東において、季節的需要を主な理由として減少している。

前年同月と比べると、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、日用品が全国において、不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前月に比べて	農水産品	1	2	10	3	1	水産品	東北、中国、九州	4, 8
							青果物、米	北海道、東北	4
	金属製品			14	6				
							建築用金属製品	近畿	4, 8
	機械	1	12	7					
							機械部品、農機具	関東、近畿	4
	化学工業品			15	7				
							化学薬品、合成樹脂	近畿	4, 8
	繊維工業品	3	15	5			防寒衣料品	関東、中部	4
							糸類、織物	関東、近畿	4, 8
食料工業品	2	14	4	1			関東、中部、近畿	8	
						加工食品	北陸信越、関東	8	
日用品	3	8	10			玩具、文具、印刷物	関東	4	
						一般貨物、身廻品、書籍	全国	4, 8	
その他	2	14	5				全国	2	
						宅配貨物	全国	2, 4, 5, 8	
前年同月に比べて	農水産品			13	4				
							農産物、青果物、畜産物	関東	4
	金属製品	1	14	5				近畿	9
							建築用金属製品	関東、近畿	4
	機械	5	13	2			自動車部品、農機具	関東	4, 9
							家電製品、機械部品	関東、近畿	4
	化学工業品	1	18	3				近畿	9
								関東	4
	繊維工業品	3	16	2	1			中部	4, 8, 9
								関東	4
食料工業品	3	13	5				四国	5, 7, 9	
						飲料	関東	2, 4, 5, 7, 9	
日用品	5	8	7	1		一般貨物、玩具、文具、印刷物	全国	4	
						身廻品、書籍	全国	9	
その他	3	13	5				関東、近畿	2, 9	
						宅配貨物	全国	2, 4, 5, 9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 870社 / 調査対象事業者数 1,110社）の輸送量は、前年同月比100.2%、前月比 99.4%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	100.2%	102.4%	96.3%	100.2%	96.2%	100.9%	99.4%	106.3%	103.7%	96.3%	112.7%
前 月 比	99.4%	95.9%	99.8%	100.3%	99.1%	101.7%	100.4%	101.2%	102.8%	99.6%	96.3%

(2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、冬期における土木・公共工事の減少により「砂利・砂・石材」や「セメント」等の輸送減が、また、船舶の入港減等による水産品の輸送減により対前月比95.9%となったが、石油製品の需要増、農産物の収穫が好調だったこともあり、対前年同月比で102.4%となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降とも下降傾向にあるものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、「砂利・砂・石材」の需要の増加、及び冬季に入り「その他の石油製品(灯油)」の輸送量が増加したが、「穀物(米)」「野菜・果物」が収穫期のピークを越えたことによる輸送量が減少したことから、対前月比99.8%とほぼ横ばいとなった。なお、対前年同月比は96.3%と依然として厳しい状況である。今後の輸送見通しは、次月は横ばい、以降は下降傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、秋期需要による農産物等の輸送増が見られたが、収穫期の終了による輸送減と回答した事業者もあり、また、先月に引き続き「木材」の輸送減があったため、対前月比100.3%、対前年同月比においても100.2%とほぼ横ばいの状況であった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月及び以降とも下降傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、先月に引き続き積雪期前の工事に伴う建設資材等の運搬の増加、灯油等石油製品の輸送増、正月用食材の輸送需要の増加等プラス要因が見られるが、米・果物等農作物の収穫期の終了による運送需要の減少や、公共工事の減少による輸送量減などのマイナス要因により、対前月比99.1%となった。また、荷主先の販売不振等不況による輸送量の減少により、対前年同月比では96.2%となった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は下降傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、「野菜・果物」「その他の窯業品」「砂利・砂・石材」は減少が見られたが、お歳暮関連で「その他」が増加が見られたことから、対前月比は101.7%、対前年同月比は100.9%と共に増加傾向となった。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降は下降傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、秋や年末に向けての需要における「水産品」「食料工業品」等の輸送増が見られたものの、一部には景気の影響を引き続き受けている品目もあることから、前月比100.4%、前年同月比99.4%とほぼ横ばいとなった。</p> <p>今後の輸送見通しは次月は増加傾向、以降は下降傾向である。</p>
中国	<p>本月の輸送は、冬期暖房需要による石炭・石油製品を中心に輸送量が増加している。さらに、「砂利・砂・石材」や収穫期のピークである農産物の輸送増があったことにより、対前月比では101.2%となった。また対前年同月比は106.3%と増加した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月においては増加傾向、以降は下降傾向である。</p>
四国	<p>本月の輸送は、景気の影響を受け「鉄鋼」「セメント」の輸送減が見られたものの、みかんの収穫が本格化したことや、その他季節的要因により農産品、石油関係品等の輸送増が見られたことから対前月比102.8%と、対前年同月比は103.7%と共に増加した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月においては増加傾向、以降は下降傾向である。</p>
九州	<p>本月の輸送は、地域により増減が異なった。季節的な要因(収穫期、お歳暮、正月関係)による農産物や関連工業品等の輸送増があった反面、公共事業等の減少による土木関係品の輸送減が見られ、対前月比99.6%とほぼ横ばい状況であった。また、対前年同月比は96.3%と引き続き減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降わずかであるが上昇傾向である。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、切花の出荷増により「その他農産品」が増加し、ロールペーパー・ダンボール等の「紙・パルプ」の需要が増加した。一方、家電需要が落ち込んだことから「日用品」の輸送が減少し、「食料工業品」についてもビール・ワイン・ジュース等の飲料が夏場の需要期を過ぎたため減少した。このため対前月比96.3%と減少したが、対前年同月比112.7%と引き続き増加した。</p> <p>今後の輸送見通しは、次月は増加傾向にあるが以降は減少傾向にある。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりました。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	1	0	0	0	0	2	0	2	0	5
	減	2	5	0	4	0	0	0	0	1	0	12
2. 野菜・果物	増	4	2	2	2	1	1	0	4	3	0	19
	減	7	4	2	3	2	1	0	0	2	0	21
3. その他の農産品	増	4	0	0	0	1	0	0	1	1	1	8
	減	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
	減	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3
5. 水産品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	減	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
6. 木材	増	1	2	0	0	1	0	0	0	3	0	7
	減	4	2	10	0	0	2	1	0	3	0	22
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	4
	減	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	2	3	0	1	1	0	2	1	3	0	13
	減	5	2	0	1	1	0	0	0	2	0	11
11. 工業用非金属鉱物	増	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5
12. 鉄鋼	増	1	0	0	2	1	1	2	0	2	0	9
	減	1	1	0	2	0	3	0	1	0	0	8
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2
14. 金属製品	増	0	2	0	1	0	2	0	0	2	1	8
	減	1	0	1	3	0	1	0	0	6	0	12
15. 機械	増	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4
	減	1	1	2	1	1	1	0	0	1	0	8
16. セメント	増	0	1	0	1	0	0	0	1	4	0	7
	減	2	2	0	1	0	0	1	1	1	0	8
17. その他の窯業品	増	1	1	0	1	1	0	2	0	2	0	8
	減	1	1	1	0	1	0	1	0	2	0	7

